気候変動適応型灌漑排水施設保全等対策事業

【平成31年度予算概算決定額　68（71）百万円】

＜対策のポイント＞

国際水管理研究所（IWMI）およびメコン河委員会（MRC）に我が国専門家を派遣し、アジア各国の気候変動に適応したかんがい施設整備及びかんがい手法に関する技術支援を行います。

＜政策目標＞

本事業の成果を活用したかんがい施設整備が実施される。（４地区以上［平成35年度まで］）

＜事業の内容＞

1．干ばつモニタリング・レジリエンス対策調査　28（30）百万円

○　アジアモンスーン地域では、気候変動の影響により干ばつが発生していますが、対応するシステムが確立されていないため、農業生産に多大な影響を及ぼしています。

○　気候変動に脆弱なアジア地域において、人工衛星データを用いた干ばつ予測・監視・警告システムの開発を行うとともに、本邦技術を活用した効果的な水源計画、かんがい施設整備計画、かんがい施設整備と合わせた水管理手法等を検討し、関係国に施設整備・計画に関する提言・技術的指導を行います。

2．メコン河流域における灌漑施設に係る技術検討調査　40（41）百万円

○　メコン河流域では、ダムや取水堰等のかんがい施設の設置が進められている一方、取水量の増加及びかんがい施設への魚道未設置により、流域全般の水文、環境及び内水面漁業に影響を及ぼすことが懸念されています。

○　かんがいの越境的影響を緩和し、かんがい農業と内水面漁業の共存を図るべく、本邦技術を活用したかんがい施設整備及び運用手法を検討し、関係国に施設整備・運用・管理に関する提言・技術的指導を行います。

（事業実施期間：１の事業　平成30年度～平成32年度
２の事業　平成29年度～平成32年度）

＜事業の流れ＞

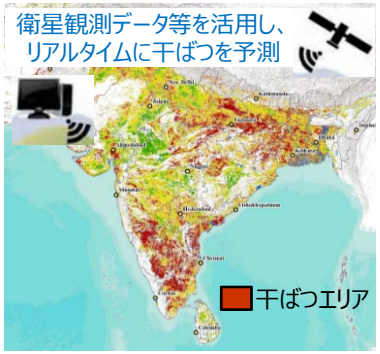
国 → 拠出金 日本（100%） → １の事業：国際水管理研究所（IWMI）
国 → 拠出金 日本（100%） → ２の事業：メコン河委員会（MRC）

＜事業イメージ＞

１の事業

拠出先：国際水管理研究所（IWMI）
対象国：アジア地域（スリランカ等）

アジア地域の水管理改善に長年取り組んでいるIWMIの知見・経験を活用し、システムを開発します。
また、IWMIを通じて我が国の知見・技術を活用した干ばつへの適応策を普及します。



２の事業

拠出先：メコン河委員会（MRC）
対象国：メコン河流域（ラオス、カンボジア、タイ、ベトナム）

MRCでは、2016年から2020年の戦略計画においてかんがいの越境性緩和及び魚類と共存できる灌漑システムの構築を掲げています。
MRCと協力して我が国の技術を活用し、メコン河流域の持続的な開発に貢献します。

堰高が高く魚が遡上できない頭首工

魚類が移動可能な魚道の設置

［お問い合わせ先］（１）大臣官房海外投資・協力グループ（０３－３５０２－５９１３）
（２）農村振興局設計課海外土地改良技術室（０３－３５９５－６３３９）